

みなさんから寄せられる願いにこたえて、住みよい中原区のまちづくりなど市議会できりくんできた内容を議会報告にまとめました。

## ぜひお読みいただき、 ご意見をお寄せください

子育て支援、母と子のいのちを守るために  
がんばってきました ..... p2-3

子どもがのびのび育つ学校・地域へ  
教育環境の改善を求めてきました ..... p4-5

高齢者・障害者が安心して暮らせるまちに  
～福祉・介護の充実を ..... p6-7

パンジー・シクラメン...お花の生産など  
農業支援策を求めました ..... p8

下小田中・技術校跡地問題  
～住民の願いを大切に計画の見直しを ..... p9

雇用を守り拡大するとりくみ、  
中小企業・商店街の支援を求めています ..... p10-11

安全で住みよい中原区へ、まちの課題の  
解決にとりくんでいます ..... p12-13

日本共産党川崎市議員団の議会活動 ..... p14-15



日本共産党市議員  
(中原区)

# おおば 裕子

## 議会報告

2010年版

日本共産党川崎市議員団  
川崎市川崎区宮本町1 川崎市役所内  
☎200-3360



# 母子のいのちを守るために 子育て支援に「がんばりてきました」

## 空白の中部地域に、一刻も早く「小児急病センター」の整備を

子育て中のママから「夜、子どもが病気になるたときが心配」という声が寄せられました。「小児急病センター」が南部と北部地域にしかなく中部地域にありません。

休日急患診療所の小児科を受診した患者数が市内7区でもっとも多いのが、中原区（1日平均41・8人）です。

09年12月議会で、おおば議員は、「中部地域内の適切な場所と、小児科医師を確保して整備を推進するよう最善をつくすべき」と迫りました。健康福祉局長は「関係団体と協議し、検討していきたい」と答えました。

## 子どもの医療費、所得制限なしで中学卒業まで無料に

お金の心配をしないで子どもを病院に連れて行きたい：親御さんの願いです。小児医療費助成が07年1月から就学前までにな

りましたが、小学校1年生から医療費の自己負担が3割というのは保護者にとって重い負担です。

さいたま市や東京23区など近隣の自治体では、所得制限なしで中学卒業まで無料化しており、共産党は「川崎市でも」と毎議会で要求しています。先の市長選挙で「拡充する」と公約した市長は、一刻も早くふみだすべきです。



市議会で質問する、おおば議員

## 待機児がもっとも多い中原区認可保育園の緊急増設を

「育休明けまでに保育園が決まらなければ、仕事を辞めなければ」と、切羽詰まった相談が寄せられます。

認可保育園への入所を申請しても入れない「不承諾者数」が、市内7区で一番多い中原区（2010年2月、547人）。希望者のほぼ2人に1人が入れないほど、保育園不足が深刻になっています。

2010年4月入所希望者認可保育園の入所「不承諾者数・率」

	入所申請児童数	入所不承諾者数( )は率
川崎区	910人	272人(29.9%)
幸区	820人	323人(39.4%)
<b>中原区</b>	<b>1,211人</b>	<b>547人(45.2%)</b>
高津区	1,117人	471人(42.2%)
宮前区	840人	363人(43.2%)
多摩区	891人	313人(35.1%)
麻生区	578人	224人(38.8%)

(2010年2月、川崎市保育課まとめ)

## 入園料も保育料も政令市でいちばん高い 私立幼稚園の保育料補助 大幅増額を求めています

中原区内の幼稚園教諭時代から父母といっしょに助成の増額を求める署名にとりくんできた、おおば議員。

いま、入園料も保育料も（平均額が）政令市で一番高い川崎市ですが、市独自の上乗せ補助は所得が一番多いEランク（年収680万円以上）だけです。

共産党は毎議会で、横浜市などのように全ランクで市独自に補助を上乗せするよう要求。毎年の市予算の「くみかえ提案」でも、補助の月1万円増額、入園料10万円補助の創設を求めています。

## ●新政権が減らした補助単価を補てん

民主党政権は、国が決める幼稚園保育料補助の単価を所得Dランク（年収360万円）680万円）で減額。09年12月議会で共産党は、減らされる分を市が補てんすべきと要求。市の2010年度予算で実現し、前年と同額が維持されました。

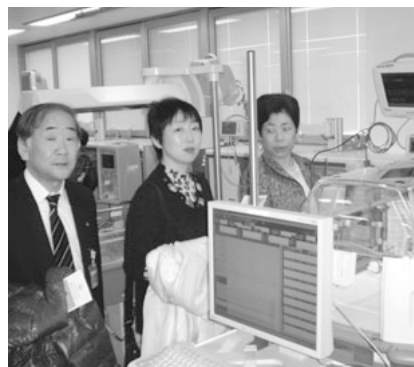


## 月26,000円補助する江戸川区を視察

私立幼稚園の保護者に月額2万6千円（上限）まで補助している江戸川区を視察。同区では区立幼稚園の保育料（月額3千円）との格差を是正するために私立への補助を厚くして、公私の公平性を確保するという考えです。同区は入園料補助10万円もあります。

## ●まちがった「公平論」による公立幼稚園の廃止に反対

川崎市は「少数の園児だけが安い保育料で通えるのは不公平」との理由で、09年度末で公立幼稚園（新城・生田）を全廃し、私立だけにしてしまいました。「公平性」の考え方が江戸川区とは正反対です。09年9月議会で提案された、市立幼稚園を廃止する条例には自公民が賛成、共産党は反対しました。



聖マリアンナ医科大学病院(宮前区)に開設された総合周産期母子医療センターを視察(2010年3月)

## 妊婦健診への公費助成が14回に増えました

妊婦健診への助成を14回に増やすべきと議会で要求してきた共産党市議団。おおば議員は、この問題に関する調査・質問原稿づくりを担当。日本産婦人科医学会が「14回の妊婦健診がすべて公費で負担されることを希望する」とした見解も示し、議会でくり返し要求してきました。09年4月から、従来の5回から14回へ、妊婦1人あたりの助成額が2万6千円から8万9千円まで増えました。

その後、補助券が里帰り出産などでは使えないなどの事例が起り、さっそく改善を要求。2010年1月から市に申請すれば払い戻されることになりました。

## 父子家庭にも経済支援を

09年1月「父子家庭は全国で9万世帯、37.2%は年収300万円未満」という記事が新聞に載りました。

おおば議員は同年3月議会で、市内の母子・父子家庭の現状について質問。市内でも父子家庭は957世帯(当時)にのぼることが明らかになりました。他都市での父子家庭への補助の事例を紹介し、川崎市でも経済支援を行なうよう求めました。

# 子どもがのびのび育つ学校・地域へ 教育環境の改善を求めてきました

## ゆきとどいた教育へ 少人数学級の拡大を

「どの子どもにもゆきとどいた教育環境を」…保護者や教育関係者のねばり強い運動と連携し、共産党は少人数学級の実施・拡大を毎議会でも求めてきました。その結果、07年度から小学1年生の全学級で35人以下学級が実現。09年度には「川崎市独自で少人数学級の

実現を」との請願が、初めて市議会本会議でも全会一致で採択されました。

多くの自治体で実施され、きめ細かい指導により「子どもたちのつばやきが聞こえる」と、その効果は実証済みです。さらに小学2年生の全学級、中学1年生に一刻も早く拡充するよう、とりくみを強めます。

## 市内最大のマンモス校 西中原中学校の「過大規模」解消を要求

西中原中学校では大規模改修が行なわれていますが、07年当時、老朽化が激しかった同校を訪問調査。教室が足りず、特別教室を普通教室に代替するなど、生徒たちも教職員も、快適に学校生活を送れる環境ではない状況をつぶさに感じました。

同校が09年度の生徒数1294人と市内最大で、いまや「日本一」ともいわれる「過大規模校」になっている問題について、おおば議員は議会でもくり返し質問(07年6月、08年

3月、同年6月)。川崎市教委による小中学校の「適正規模・適正配置」の基本的な考え方は、普通学級数で12、24学級ですが、同校はすでに07年度で30学級あり、13年度には34学級になる見込みです。これが検討委員会の審議で一度も議論されていないことを指摘し、「過大規模校」解消の対象校として検討するよう求めました。



広島市立小学校の少人数学級授業を見学

## ランチサービス改め 中学校給食の実施こそ

中学校ランチサービスの喫食率は09年12月平均で14%、1学年で1人程度しか申し込みがありません。中原中学校で試食しましたが、野菜が少なく、育ち盛りの中学生の食としては疑問を感じました。

小学校の調理室で作る給食を提供している麻生区・はるひ野中学校では喫食率が約5割です。東京23区は完全給食、新たに政令市になる相模原市も中学校給食を実施します。川崎市教委は「親子の絆を深めるお弁当が基本」といつてきましたが、共産党が食育の観点からも中学校給食の実施をと議会のたびに要求するなか、3月議会でも初めて教育長が、小学校の給食調理室を使うことも検討すると答弁。これを機に中学校給食にふみだすべきです。



中原中学校でランチサービスを試食(09年12月)

また、大谷戸小や下小田中小、今井小なども生徒数増加が激しく、プレハブ増築で対応。教育環境の悪化に不安の声が寄せられており、対策を求めていきます。

## 通学路で子どもの安全を守る 「地域交通安全員」の役割

県の事業で川崎市に20名配置されていた学童等誘導員が09年度末で廃止されるため、2010年度から市教委が所管する地域交通安全員を増やして対応。学校から申請を受けた危険箇所配置されます(73名予定)。3月議会でも、おおば議員は、通学路で学童の安全を守る大事な仕事であることから、専門職として位置づけ新たな制度をつくるよう求めました。

## 地域子育て支援拠点 下新城の「おいでおいで ルーム」に助成を

下新城にある子育て支援拠点「おいでおいでルーム」は、空き店舗を利用し、元保育士さんらが子育ての居場所づくりのために開業し、多くの乳幼児とママが利用しています。議会でも、お

おば議員は、市が実態を把握し、こうした自主的な子育て支援の居場所を継続運営でできるような助成を求めています。



下新城の「おいでおいでルーム」を訪問

## 「15の春」を泣かせないで！ 公立全日制高校の定員拡大を

市内の中学生の進路希望は「公立全日制高校」が約8割なのに、県は公私の比率を6対4に割り振り、希望より公立を低く抑えています。その低い6割でさえ保障するには、2010年4月入学時に、市内の県立・市立高校の募集定員を22学級(856人分)

増やすことが必要でしたが、増えたのは9学級だけでした。

2010年3月議会でも共産党は、市内中学生在希望する高校に入学できるように、市が県にも働きかけ、定員枠拡大に全力をつくすよう求めました。



河川敷への水洗トイレ設置を求めて環境局長との交渉にたちあう(09年2月)

## 宮内 多摩川河川敷に 水洗トイレ設置を

多摩川河川敷の宮内地区は、中原区子ども育成会の少年野球大会(春・夏・秋)、凧揚げ大会、宮内自治会子ども会共催の「どんと焼き」、2つのリーグがシーズン中に野球をしており、宮内中学校の野球部はグラウンドを練習場として活用。「水洗トイレを設置してほしい」という要望が寄せられています。

## スポーツ広場の 環境整備でも

等々力水処理センターの上部に「少年野球場を」との陳情も決議されてから数年が経過。多くのスポーツ団体や市民から「いつから利用できるのか」の声が寄せられ、おおば議員は議会でも質問してきました。

「パークボール」は、まとまった広さがなくとも、変形した土地をつないで一定のスペースを確保すれば、できるスポーツです。2010年3月議会でも、センター完成を待たずに暫定的でも利用できるよう求めました。



県立高校跡地に実現したスポーツができる防災公園(平塚市、08年3月開設)の見学会に参加

# 高齢者や障害者が 安心して暮らせるまちに

## 市が土地の確保から責任果たし 特別養護老人ホームの増設を

特養老人ホームの待機者数は5339人（2010年1月時点）。横浜市が毎年約1千床の増設で待機者解消にとりくんできたのに、川崎市では08・09年度の2年間に新設されたのが全市域でわずか29床だけ。介護保険法では「要介護1」から入所できるのに、市は「要介護3」から入所基準を改善し、待機者数を低く抑える手法で対応して

## 下小田中・教職員住宅 跡地に小規模特養ホームができます

下小田中6丁目の教職員住宅跡地は、以前から、高齢者施設やコミュニティー施設をという要望が寄せられ、08年12月議会でも質問しました。  
跡地利用として地域密着型小規模特別養護老人ホームの整備（11年度開設）が決まり、併設で地域交流スペースもつくる予定。おおば議員は利用しやすい交流スペースの

きました。

まとまった土地が確保できないことが、整備がすすまない大きな要因です。共産党は、市が土地の確保に全力をあげ、希望する人すべてが入所できるように増設の規模とテナポをひき上げるよう要求。

また、千代田区のように、介護施設の人材確保への市独自の支援策を求めました。

整備や、せせらぎ祭りで協力などを求め、地域の要望をふまえた検討が約束されました。



下小田中・教職員住宅跡地



07年12月議会代表討論にたつ  
おおば議員

おおば裕子プロフィール ●東京都生まれ、京浜女子大学短期大学部（現鎌倉女子大学）卒業後、中原区の東住吉幼稚園教諭に。07年から川崎市会議員に（現在1期目）、総務委員会、健康福祉委員会、まちづくり委員会、環境委員会の各委員を務める。2010年度は川崎市農業委員に。

## 老人医療費助成、廃止しないで！ ●市議会で、おおば裕子議員が主張

高齢者の命綱として川崎の宝だった、市独自の老人医療費助成制度を廃止する条例が07年12月議会に提案されました。共産党の代表討論にたつた、おおば議員は「67〜69歳までの高齢者の窓口負担が一挙に3割負担に、いまの3倍の負担増になる。1人あたり年間約5万円、総額16億円もの負担増が押しつけられる」と指摘。  
助成の廃止は「あいつぐ増税と保険料等の負担増に苦しむ高齢者に追い打ちをかけるもの。助成制度を守り拡充し、長寿が喜びになるような川崎にすることが自治体の役割です」と主張。「病気の早期発見、早期治療こそ医療費（総額）を抑制する道です」と述べ、高齢者いじめを批判しました。

## 今井地域に「老人いこいの家」整備を要求

市内で中学校区単位で「老人いこいの家」がないのは、中原区の今井地域を含め3カ所だけです。

「他の老人いこいの家は、地域の高齢者が集い、絵手紙やカラオケ、卓球、入浴やマッサージなど、楽しみながら介護予防、とても楽しそうであらやましく思います」との声が寄せられ、今井地域の高齢者にとって「老人いこいの家」は悲願です。

議会で、おおば議員は、いままです土地の確保が困難という理由で整備されなかった経過を指摘し、旧中原消防署跡地も選択肢の一つとして検討するよう要望しました。



「今井中学校区に『老人いこいの家』をつくる会」の方々と旧中原消防署跡地で

## 「障害者自立支援法」の廃止、 低所得者は市独自で無料に

自公政権がつくった「障害者自立支援法」は、障害者が福祉サービスを利用するたびに1割の利用料負担がかかり、しかも重い障害の人ほど重い負担に。

共産党市議団は「自立破壊法は廃止すべき」と一貫して主張。障害者と家族、関係団体のみなさんの意見・要望を聞き、議会で「応能負担にもどし、低所得の方の利用料を無料に」とくり返し求めています。

## 新城駅付近に 視覚障害者用 信号機・誘導ブロックを

視覚障害者の方と武蔵新城駅から、せせらぎ沿いに「ハローワーク川崎北」まで歩き、09年3月議会でも質問。

関係局長が、音響式信号機の設置は所轄警察署・関係局と連携をはかり、誘導用ブロックは施設内の誘導用ブロックと接続するよう検討すると答えました。

## 高次脳機能障害 相談窓口の設置を

「高次脳機能障害」とは、交通事故や脳卒中などの脳血管疾患の後遺症として起きる障害です。障害の特性は、言われたことや行った場所を覚えられなくなる（例・数分前の記憶がない）、集中力や意欲が低下する、衝動を抑制できなくなる、計画を立て段取りよく物事を運べなくなる等。目に見える障害でないため、健常者に見られがちで、周囲から理解されにくく、社会生活を維持するのが難しくなります。

おおば議員の知人の息子さんは、この障害のために“いじめ”にあったり、福祉の支援がないために経済的負担も含めご家族は大変な苦勞をされています。議会で何度もとりあげ、横浜市では障害福祉計画（09年4月）の中に位置づけられ、患者や家族のニーズにこたえようとしていることを紹介。

川崎市内に約5千人と推計されている、この障害の特性を市民に理解してもらうための啓発活動や相談窓口の設置、実態調査を要求し、リーフレットやポスターの作成、北部リハビリテーションセンターの一部で、相談支援を行なうことになりました。

2010年1月、ラゾーナ川崎でこの問題で初めてシンポジウムが開催され、その後の市民集会で、おおば議員が川崎市の到達点について報告しました。



川崎市立ろう学校で教育環境の聞き取り

ご存じですか

# 下小田中・技術校跡地に 県内最大の警察官舎建設計画が...

就職難の時代に若者の職業訓練の場を奪う技術校廃止そのものに共産党は反対の立場でしたが、08年3月末、下小田中の旧県立川崎高等職業技術校が廃校に。そして生まれた市内最大規模の公有地に、周辺住民の意向を聞かないまま県内最大の警察官舎建設(260戸)が計画されていることに、怒りが広がっています。



県知事あてにアンケート結果を届け、県庁担当部局と話す、おおば・市古両市議と河野幸司県議

08年2・3月、おおば、市古(副団長)ら共産党市議団は、アンケート結果を届け、「住民世論と意見を尊重して、ください」との申し入れを県知事と県警本部長に提出。

おおば議員が国会で警察庁幹部から聞き取り調査(09年7月)すると、地元自治体が指定する防災拠点や学校の跡地、少年野球・サッカーなどで使われていたグラウンドに警察官待機宿舎が建設された例は全国にないとの説明。「周辺住民と良い環境を保つことが必要」(警察庁長官官房)との見解が示されました。住民本位の跡地利用への見直しを求め、みなさんと力をあわせませす。

## 「独自で実施したアンケート結果を届け、 住民世論尊重を」と県知事、県警本部に申し入れ

市民の財産・市内最大規模の 1万3700m<sup>2</sup>  
公有地の使われ方が問われています



共産党市議団アンケートより

下小田中5丁目の職業技術校跡地

同跡地への警察官舎建設計画の「白紙撤回」「中止・見直し」を求める署名は延べ2万6千筆も提出されています。共産党市議団が07年末から始めたアンケートには850通を超す回答が寄せられ、警察官舎建設を「中止すべき」が83%を占め、跡地利用の希望は「子どもが遊べる広い公園・自然公園」がトップに。さっそく、おおば議員は同12月議会で、「集会所、公園、グラウンドなど住民要望を

実現する立場で県に働きかけを強めていただきたい」と市長に要望。用地の買い取りや、市有地を県に貸している県立新城高校の土地との交換などを提起しました。住民団体のみなさんは、認可保育園の併設を含めた「花と緑のスポーツ防災公園」構想を提案しています。

「花と緑のスポーツ防災公園に」と住民団体から市への要望提出にたちあう、おおば議員

# パンジーやシクラメンなど 農業支援を求めました

小田中地域を中心にパンジーやシクラメンなど花き栽培、多摩川梨などの生産農家と農地があり、毎年11月頃にはパンジーのじゅうたんが広がります。「中原区の花」に指定されているパンジーは、昭和40年代頃、この地域が全国有数の生産量を誇った時代もありました。いま、「パンジーの花回廊」づくりも、とりくまれています。中原区ではパンジーやシクラメンが市の「かわさき農産物ブランド」に認定されていますが、助成はありません。



09年12月議会で、おおば議員は、農業を継続していくための助成措置を要求。引越されてきた方も気軽に立ち寄れるように産直野菜を含む直売所マップを作って紹介したり、花の最盛期にはイベントなみに区をあげて盛り上げるキャンペーンの実施などを提案しました。(おおば議員は2010年度、川崎市の農業委員に)

## 上小田中1丁目の農道が舗装されました

上小田中1丁目の農道は、新城駅方面に抜ける道で、近くに「つぼみ幼稚園」があり、子どもから高齢者まで多くの人が通行しています。両側が畑で、雨が降ると、ぬかるんで歩きにくく、「水はけが悪く、悪臭がする」と、かねてから改善要望が出されていました。おおば議員は住民のみなさんと建設センターに要



上小田中西公園のベンチや柵を改善

## 水路フタかけ歩道の整備を促進

かつて水田が広がっていた中原区とくに小田中地域などは、水路にフタをかけた歩道がいたるところに。そのフタも老朽化で傷み、亀裂があつたり、自転車を通るたびにガタガタ鳴ったり、大きな穴が開くなど危険な箇所が増えていました。おおば議員は07年9月・08年6月など議会でも何度もとりあげ、道路の維持補修を含め予算を増額して整備するよう要求。水路のフタかけ整備がすすみました。



整備された下小田中の水路の歩道で

# 雇用を守り、拡大する施策を 求めてきました

## 市内大企業に 雇用を守る社会的責任を

市内の企業職場でも、派遣切りや若者を「使い捨て」にするような働き方、正社員への退職強要など違法行為が横行。共産党は、雇用を守る社会的責任を果たさせるよう市長が市内大企業に強く申し入れるべきと、議会できり返し求めてきました。

## 若者の就職面接指導での ”違法テキスト” “謝罪させ、 削除させる

おおば議員の初めての議会質問は、川崎市が民間委託で、若年者のカウンセリング事業や就職準備セミナーなどを実施している「キャリアアサポーターかわさき」の問題でした。そこでの面接指導で「給料、残業、休日については聞いてはならない」などと労働者の権利



県の労働ガイドブックをかかげて議会にて質問する、おおば議員

## 高校生・青年向けに 「労働者の権利」の 学習機会を

おおば議員は、若いうちに労働者の権利の基本的な知識を得るために、市独自でわかりやすいパンフレットを作成し、中学生や高校生にも配布すること、雇用保険や生活保護などセーフティネットのしくみを学習するために社労士による労働出前授業を要求。その結果、市が県作成の労働ガイドブックを市内の高校2年生全員に配布。労働出前授業も社労士を含めた学習活動の充実が約束されました。

## 高校生の就職支援、 企業総訪問で求人開拓を

高校生の就職にとって、市内企業、地元自治体が果たす役割は決定的です。

# 中小企業の支援、元氣な商店街に

おおば議員は、町工場でつくった製品の展示場を独自で開設した「等々力工業会」を見学。それぞれの製品の品質の高さに驚かされ、仕事減や単価引き下げ、融資返済などの悩みや要望をお聞きしました。

その後、議会でも共産党は「等々力工業会」が製品を常設展示できるような家賃補助や、製品と国内外企業とのマッチング支援などを要求しました。



等々力工業会で話を聞く

## 工場家賃、機械リース代 など「固定費」補助を

この間、八王子市や大阪八尾市など、工場や雇用の維持を財政的に支援する自治体独自のとりくみが広がっています。議会でも

### 新城

## ほのぼの市 おかみさん会を応援

多くの商店街が、高い家賃の支払いや後継者問題などの課題を抱えながら、お客さんをご呼び込むか知恵を出し合っています。

新城おかみさん会では、月に1度の「ほのぼの市」を10年以上つづけ、地域のコミュニティーづくりに貢献し、地道な活動で商店街をささえてきました。お年寄り子どもたちのふれあいの場をつくらせて伝承遊びをとりいれるなど創意をこらしています。

議会でも、おおば議員は、こうした努力を市が支援し、活性化に役立つ情報の提供を、市内の商店街に発信しあうよう求めました。



新城おかみさん会の副会長(和菓子司すがや)さん

## 空き店舗対策を要求

市は商店街の空き店舗をなくす目的で新

産党は、川崎市でも、工場家賃や工作機リース代、雇用維持など「固定費」への補助を要求しています。

規創業する人に店舗の賃借料と改装費を助成する「空き店舗活用創業支援事業」を05年に創設。しかし過去3年間、多い年で利用は3回という実績です。おおば議員は、開業当初の助成だけでなく、軌道に乗るまでの数年間、家賃補助を拡充するよう求めました。

北九州市が09年12月から実施した「新規高卒採用拡大ローラー作戦」のように、川崎市も市長先頭に市内企業をまわり求人開拓に全力をあげるよう求めました。

川崎版派遣村「総合相談村」を激励



## 「雇用と労働アンケート」結果を届け、 市長と神奈川労働局に申し入れ



神奈川労働局に申し入れる、ちくま市議団長、おおば議員

## ネットカフェ難民の 調査、労働相談の充実

厚生労働省が、日雇い派遣など不安定な就労で住居も失っている「ネットカフェ難民」の調査をしたことを受け、川崎市でも市内の実態調査を要求。若者の就労支援とともに、生活支援の融資制度や家賃補助制度など住居の確保策を要求しました。

深刻な実態を調査しようと共産党川崎市議団は09年1月から「雇用と労働アンケート」を実施、1600人もの回答が寄せられました。派遣切り、違法なサービス残業など、人間扱いされない職場の実態がびっしり書きつづられ、当時500人の派遣切りを発表した、三菱ふそうトラック・バス㈱で実際にリストラにあった青年からも直接、話を聞きました。アンケート結果を持って、雇用を守る緊急申し入れを市長に提出。神奈川労働局にも対策を申し入れられました。

# 安全で住みよい中原区をめざして まちの課題の解決にとりくんでいます

## 駅前への放置自転車対策、 駐輪場整備すすみます

09年6月議会で、おおば議員は、中原区の各駅周辺の放置自転車の実態と駐輪場設置について質問。内閣府公表の全国実態調査(06年)で、全国ワースト10位の中に「武蔵新城駅」8位、「元住吉駅」9位が入っていました。整理誘導員のみなさんの努力などにより、それぞれ19位、10位に若干上昇。それでも数千台の自転車が放置されています。

議会では、整理誘導員のみなさんのご意見を聞く仕組みをつくり、放置自転車対策に生かすよう求めました。

## ●元住吉駅に12000台駐輪場を新設——2010年度完成

元住吉駅付近の高架下に第1駐輪場530台、東急電鉄用地内に第2駐輪場670台の新設を予定し、2010年度内の完成をめざしていることが、おおば議員の質問で明らかになりました。

## 集中豪雨 小杉周辺などの 雨水・浸水対策を要求

近年、集中豪雨が頻発し、浸水被害が起るたび、おおば議員は議会場で対策を求めました(07年9月、08年12月)。

小杉3丁目(旧市民館・図書館前)道路は雨水が集中しやすく店の中まで浸水し、道路が冠水。道路の低地部に集水ますを設置させました。

市ノ坪地域も、周辺地盤より低いために雨水が集まりやすく、これらが道路冠水の要因と考えられ、当該地区への雨水流入を防ぐ対策を講じると約束させました。



集中豪雨で道路冠水した市ノ坪地域

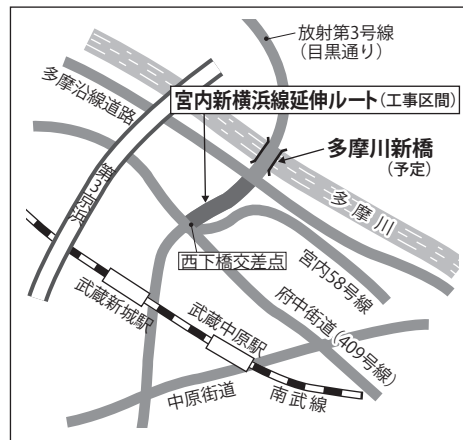
## 周辺住民の不安にこたえて

都市計画道路「宮内新横浜線」と多摩川の新橋の整備事業が、09年度末から始まり、住民説明会に、おおば議員も参加。道路幅が広がり、立ち退き対象になる事業主さんなどから「代替地はどうなるのか」「生活再建できるのか」と補償問題などへの不安が出され、おおば議員は2010年3月議会場で質問。

この道路計画で該当する地権者は約200人で、そのうち事業予定地にかかる軒数は約100件と推計。工事完成目標は2020年(平成32年)で約10年間です。また、多摩川新橋ができると交通量は約2万7千台増加すると予想され、渋滞や大気汚染の影響も心配です。

おおば議員は、影響を受ける住民には通知だけではなく直接訪問するなど誠実な対応を求めました。

## 「宮内新横浜線」延伸と新橋の整備では



## 井田・木月・下小田中地域に コミュニティバス導入を提案

南武線駅からのバス路線のアクセス・本数が少ないため、患者さんからの強い要望で武蔵小杉駅と井田病院を巡回するシャトルバスを病院局が無料運行しています(井田病院の建て替え修了までの予定)。近くには、交通の便が悪い「国際交流センター」「老人いこいの家」があります。2010年3月議会でおおば議員はこの地域にコミュニティバス(ミニバス)の導入を提案しました。

また、臨港バスの中原駅前発着便が15年間で3分の1に減っており(表)、この地域の交通利便性の実態把握が求められます。



上は武蔵野市のムーバス  
左は稲城市のi(あい)バス  
(ホームページより)

## 臨港バス 原62系統の 中原駅前発着便が大幅減便

ダイヤ改正	変更便数(往復)
1994年3月	78便⇒60便(18減)
1997年4月	60便⇒24便(36減)
2008年3月	24便⇒22便(2減)
2009年3月	22便⇒28便(6増)

(川崎市交通局資料)

## 「交通手段・路線バス」に 関する住民アンケートを 実施中〜ぜひご協力ください

バス導入に関する住民アンケート(受取人 払封筒付き)を実施しています。ぜひご協力ください。



## 新城高校前でくり返される 陥没事故

### 調査・安全対策を求める

新城高校周辺の雨水管工事による陥没事故が3回も起きています(07年2月、08年4月、2010年2月)。おおば議員はその都度、議会場で安全対策・対応策を求めてきました。

2回目は長さ・幅とも40メートル、最大深さ2メートルで、高校のグラウンドのひび割れや防球ネットが傾くなど大事故に。地質調査の詳細結果が明らかにされていない問題をただし、事故対策の検討委員会は公開により市民が納得できるまで行なうべきと主張。家屋調査は「沿線の家屋、工事区域40メートルの範囲まで広げるべき」と求め、希望のある方々は調査すると約束させました。

3回目は、小学校校舎の廊下やトイレの壁や床に亀裂が入り、教室の窓やドアが開まりにくくなり、冷暖房架台基礎が沈下。地盤調査など、ひきつづき安全対策を求めています。

## 学校に被害、 周辺住民に 不安広がる



陥没事故の現場(おおば議員撮影)



高速川崎縦貫道路の建設  
1メートル1億円 2010年度までに総事業費6252億円



小杉再開発で市が  
ビジネスホテル建設  
土地代含め整備費44億円



“船の来ない港”に計画  
3機目のガントリークレーン

いまある2機で年間13.5万TEUの処理能力があるのに、08年の年間取扱量は5.1万TEUでした。(1TEU=20フィートコンテナ1個)

多摩川河口に  
新たな橋を架ける計画も  
400億円(見込額)



羽田連絡道路の建設予定地、点線は上流案(手前は大師橋)

現市長は、車がほとんど走らない高速道路や、ビジネスホテル建設などを強行し、“船の来ない港”川崎港コンテナターミナルに2機(32億円)あるガントリークレーン

に加えて3機目を建設する設計費を2010年度に予算化。こうした税金ムダづかいをやめるよう主張しているのは共産党市議団だけです。

# 不要不急の開発事業ストップを！ 税金のムダづかいをただす

福祉・くらし最優先で「予算くみかえ」を提案

の市長予算案にこぞって賛成し、自公民「オール与党」体制を修復。共産党市議団は、ムダな開発をやめるなどの財源を示して、子育てや福祉・くらしを最優先する「予算くみかえ」を毎年提案しています。

09年10月の市長選で現市長の対立候補を立てた自民や民主は、直後の2010年度

土地がないという理由で... 保育園・特養ホーム増設が  
すすまないのに...

## 臨海部・企業誘致の土地購入には260億円

市は、水江町237億円(下写真)、殿町3丁目23.5億円など、臨海部の企業誘致の土地購入には次つぎ大金投入。共産党市議団は、認可保育園や特養老人ホーム建設のためにこそ、市が土地の確保に責任を果たすよう求めています。

臨海部・水江町の企業誘致事業用地  
5万5621m<sup>2</sup>を237億円で購入する議案

自民党	民主党	公明党	共産党
○	○	○	●

08年12月議会 (○賛成 ●反対)



# 建設的提案とねばりの論戦で 市民の願いにこたえ 議会 でがんばる 日本共産党川崎市会議員団の活動

あいつぐ福祉切り捨て  
市民負担増に  
キツパリ反対

学童保育、公立幼稚園、敬老無料パス、老人医療費助成、介護援助手当、重度障害者の入院時食事費補助や難病患者への療養費補助まで廃止・削減するなど、福祉を次つぎ切り捨ててきた現市長。市民いじめに自民・公明・民主がすべて賛成するなか、共産党市議団はこれらの福祉切り捨てに反対してきました。

福祉切り捨て議案への各党の態度	自民党	民主党	公明党	共産党
重度障害者等の入院時食事費補助を廃止する条例(2003年12月)	○	○	○	●
バスの敬老無料パスを廃止・有料化する条例(2004年3月)	○	○	○	●
老人医療費助成を廃止する条例(2007年12月)	○	○	○	●
後期高齢者医療制度を導入する条例(2008年3月)	○	○	○	●
介護保険料を値上げする条例(2009年3月)	○	○	○	●
市立幼稚園を廃止する条例(2009年9月)	○	○	○	●

(○賛成 ●反対)

妊婦健診への公費助成  
5回から14回に拡大

1人総額26,000円から89,000円に。里帰り出産等でも使えるように改善

私立幼稚園の保育料  
補助を市が補てん

所得Dランク(7,754人)の減額分(第1子は18,600円)を補てん、前年同額を維持

35人学級を小学1年生で  
全校実施

～2年生は69校まで拡大  
小中学校教員の「定数内欠員」が前年274人から2010年度115人へ

小中学校の全教室に  
エアコン設置が完了

学校トイレ快適化改修工事もスタート

中小企業融資の利率を  
引き下げ、雇用対策も

就業カウンセリング・マッチング事業強化、商店街の街路灯LED化

公共工事での労働者賃金  
確保する「公契約条例」

2010年度中に策定へ

## 大企業に甘いなど 問題点の多い市長案には 市民の目線で「条例修正案」

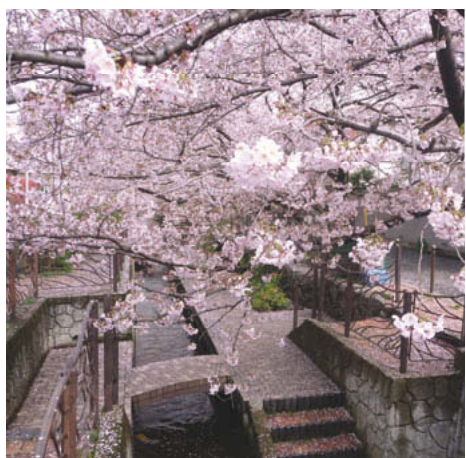
CO2削減を排出企業に求めない条例案や、大企業の水道料金だけ手厚く値下げする条例案、事実上“住民投票させない”住民投票条例案など、問題点の多い市長原案に対し、共産党市議団は市民の目線から「修正案」を提案してきました。

- 議案提案権を行使して提案
- 住民投票条例・修正案(2008年6月)
- 水道料金条例・修正案(2009年10月)
- 地球温暖化防止条例・修正案(2009年12月)

みなさんの願いを実現、前進させました  
共産党川崎市議団(10人)は、市民の運動と力をあわせた市議会でのねばり強い論戦と建設的提案で、みなさんの願いを一步一步前進させました。



パンジー、ビオラ、シクラメン…  
おおば裕子議員は、小田中地域  
を中心に営まれている花き栽培  
など都市農業への支援策を市議  
会で求めてきました。写真は下  
小田中6丁目のペチュニア生産  
ハウス(関連記事p8)



今井地域の二ヶ領用水の桜。「お花見をし  
ながら高齢者が憩える施設があつたら  
いいね」という声にこたえて、おおば裕子議  
員は、今井地域に「老人いこいの家」を整  
備するよう市議会で求めています。

(関連記事p7)

ご意見・ご要望は

**FAX 044-245-4140**

**Email:info@kawasaki.gr.jp**

ホームページをごらんください

**<http://www.ooba-yuko.jp/>**

または「おおば裕子」で検索してください